

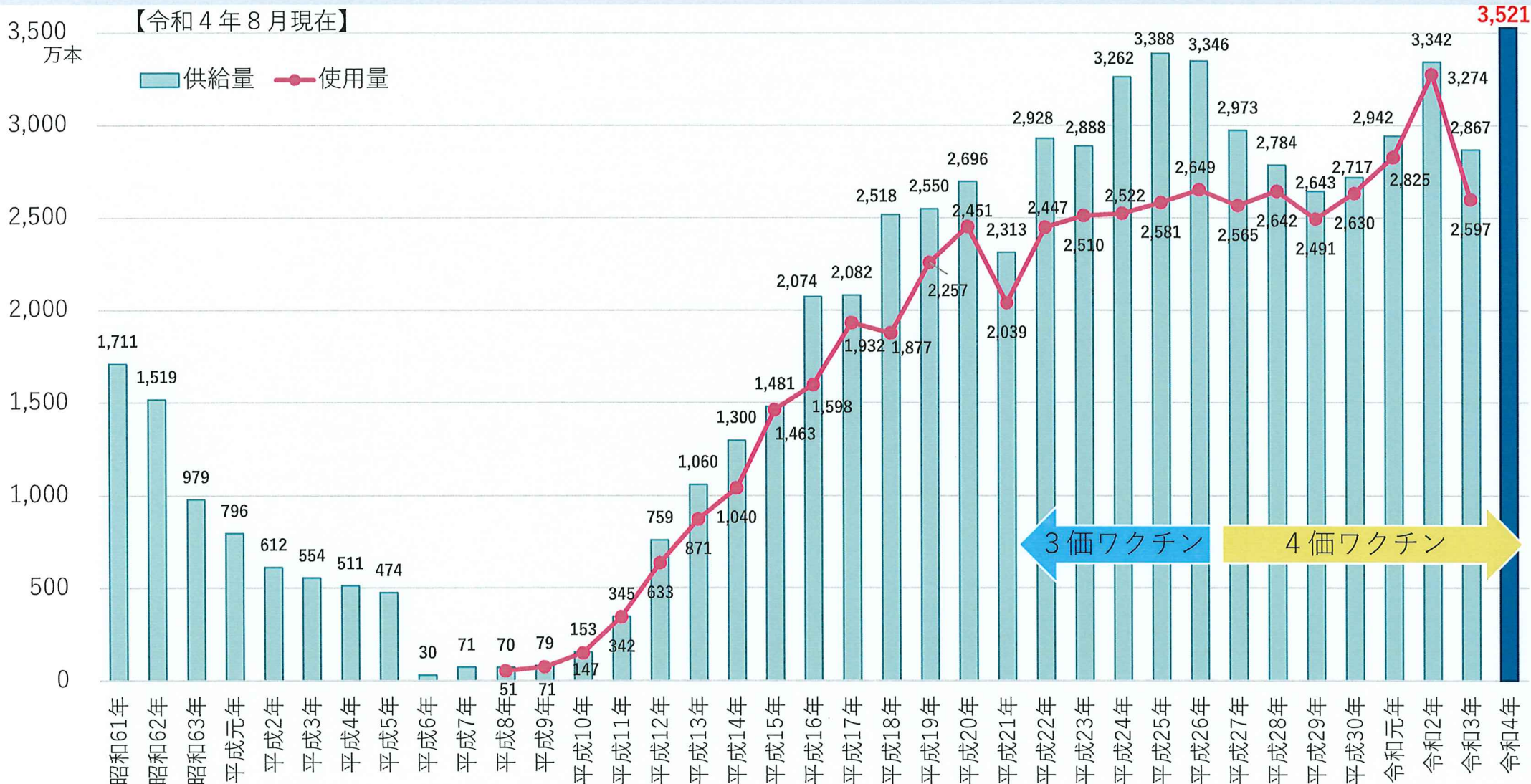
# 2022/23シーズンの インフルエンザワクチンの供給等について

厚生労働省 健康局 予防接種担当参事官室

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

# インフルエンザワクチンの供給量の年次推移

令和4年度のワクチンの供給量は、記録がある中で過去最大の約3,521万本（成人では約7,042万回分）となる見込み（記録がある中で過去最大であった令和2年度の使用量（約3,274万本）と比べても約7.5%多い量）



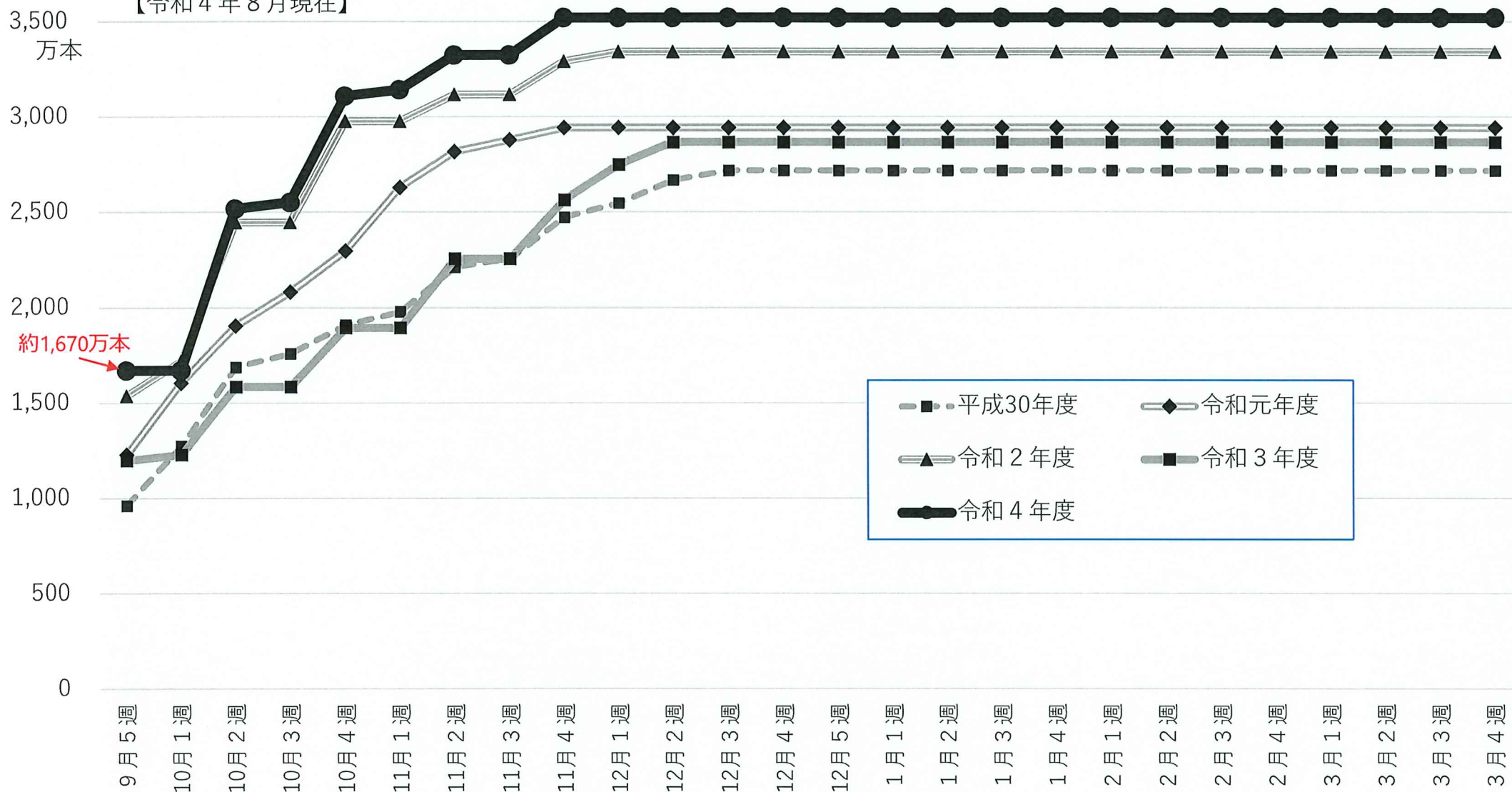
※1 平成7年以前の使用量は不明

※2 1mL換算としたときの本数（1本当たり成人2回分）

# インフルエンザワクチンの累積供給量（週次）

令和4年度は9月末の時点で約1,670万本が出荷される予定で、早期に多くの量のワクチンが出荷される見込み。

【令和4年8月現在】



注1) 供給量は、いずれも1mL換算

注2) 週の表示は金曜日を基準としている（例えば、9月5週は9/30時点の供給量を示している）

# 今シーズン（2022/23）のインフルエンザワクチンの供給に係る対応

## 今シーズンのインフルエンザワクチンの供給について

- 厚生労働省からの働きかけを受け、ワクチンメーカーにより増産の努力が図られ、今シーズンのインフルエンザワクチンの供給見込み量（約3,521万本、成人では約7,042万回分）は、記録の残る中で過去最多。
- 今年度は令和2年度と同様にワクチンの出荷が早く、例年の接種開始（10月1日）時点の供給量見込み量は約1,670万本（成人では約3,340万回分）であり、65歳以上の高齢者（約3,640万人）の約9割が1回ずつ接種できる量に相当する。

## 今シーズンの対応（案）

- 今シーズンは記録の残る中で過去最多の供給量が確保できたが、南半球のオーストラリアでは例年よりも数か月早くインフルエンザの流行が確認されたことや、新型コロナウイルス感染症と症状の類似した疾患による医療負担を軽減する観点から、インフルエンザ予防への啓発が重要であり、ワクチンの需要が高まる可能性が考えられる。
- ワクチンの効率的な使用等に係る取り組みとして、昨年度と同様に、ワクチンの効率的な使用等について医療現場へ働きかけを行うこととはどうか。

（昨年の取組） インフルエンザワクチンの効率的な使用と安定供給を推進するため、2020/21シーズンまでと同様に、

  - ・ 13歳以上の方は原則1回注射としていただくこと
  - ・ 必要量に見合う量のワクチンを購入いただくこと

などについて、医療機関に要請する等の取り組みを継続することとした。
- その他、インフルエンザの重症化予防の効果が大きい集団におけるワクチンの接種機会確保に関する方策等も検討中。
  - 厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会 予防接種基本方針部会及び感染症部会の合同部会での議論を想定